

トゲクリガニ

陸奥湾海域

Telmessus acutidens

地方名

はなみがに



生態

- ①寿命：不明
- ②成熟：甲長 50mm 以上
- ③産卵期：9 月～12 月。抱卵したメスガニは水深の浅い藻場や小砂利場に分布し砂等に潜ってあまり移動しないので、ほとんど漁獲されない。オスはメスと交尾すると生殖孔に交尾栓を植えて、他の雄が交尾できないように蓋をする。
- ④分布：冷水性のカニで太平洋側では北海道南部から東京湾、日本海ではサハリン南部から朝鮮半島南部。
- ⑤生態：12 月から翌 3 月頃にふ化する。その後、脱皮と変態を繰り返し、2 月から 5 月にかけて親ガニとほぼ同じ形となり、底生生活に移行する。ムラサキガイ等の二枚貝を捕食するため、他県では麻痺性貝毒の発生が見られる。
- ⑥成長：メスオス共に満 1 歳で甲長約 50mm。メスは満 2 歳で甲長約 60mm、満 3 歳で甲長約 70mm。オスは満 2 歳で甲長約 69mm、満 3 歳で甲長約 94mm。

主な漁業

籠、刺し網によって周年漁獲される。「さくらがに」「はなみがに」と呼ばれるように漁獲のピークは 4 月～5 月。

漁獲の動向と水準

陸奥湾海域の主要漁協におけるトゲクリガニの漁獲量は、2007～2015 年は 23 トン～34 トンで推移した。2016 年に 20 トンを下回ったもの、2017 年以降は増加に転じ 2021 年は過去最高の 121 トンを記録した。

陸奥湾東湾では 2015・2016 年の 6 月頃のホタテガイ半成貝出荷時にトゲクリガニの稚ガニが養殖施設に多く付着していたこと、2018 年 1 月末から 2 月上旬に大量のマイワシが海岸に漂着し、その後、海底に大量のへい死したマイワシが沈んでいたことが分かっている。このことから、大量の稚ガニが発生し、海底に餌料としてマイワシが補給されたことが、漁獲量増加の要因と考えられた(野呂(2021)水と漁. 第 37 号.)。

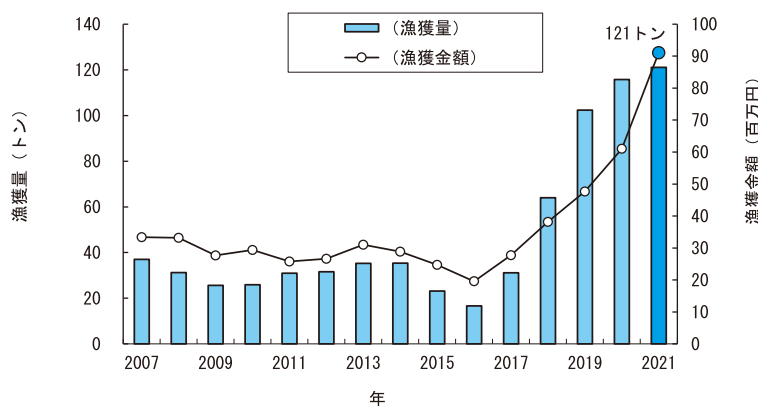


図 青森県陸奥湾海域主要漁協におけるトゲクリガニの漁獲量及び漁獲金額の推移 (水総研調べ、主要 9 港)

資源を上手に利用するために

- 資源管理計画 (陸奥湾海域 2000 年 3 月)
 - ・オス甲長 7cm 未満、メス甲長 6cm 未満個体、水ガニ (脱皮直後の個体) の再放流などを定めた。
- ☆上記の取組を継続することが必要である。

